

東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (②セ02-15-5/5)

目 的

東南アジア諸国とその周辺地域における保存修復事業への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて、文化財の保存・修復に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成 果

1. 研究会「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」の開催 (2015 (平成27) 年11月13日)
2. カンボジア・タネイ遺跡保存整備計画策定支援等
 - ア) アプサラ機構職員と同遺跡の三次元写真測量を実施 (2015 (平成27) 年5月26日～6月2日)
 - イ) アンコール遺跡保存国際調整委員会諸会合に参加 (2015 (平成27) 年6月4日、12月3・4日)
 - ウ) 同遺跡内設置の気象観測装置のメンテナンス等を実施 (2015 (平成27) 年12月4日)
 - エ) 同遺跡のリスクマップ作成のため、同機構担当者と危険箇所評価手法等に関する調査及びワークショップを実施 (2016 (平成28) 年2月14日～15日)
3. ブータンの伝統的版築建造物保存協力
内務文化省文化局遺産保存課職員との情報共有と意見交換 (2015 (平成27) 年12月21日～23日)
4. ミャンマーの伝統的漆工技術保存のための研修ワークショップの開催 (2016 (平成28) 年1月14日～15日)
5. インドネシア・パダン歴史地区復興に関する住民参加型セミナー開催
文化教育省、州、市政府等と共催したほか、市長らと協議 (2015 (平成27) 年8月24日～27日)

発表

- ・Katsura SATO “3D Documentation at Ta Nei temple” アンコール遺跡保存国際調整委員会(ICC)第24回技術会議 アプサラ機構本部 15.6.4
- ・佐藤桂ほか「ブータン王国における民家等の伝統的建造物保存に関する研究 その5 版築職人への聞き取り調査」日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.4
- ・マハラジャアキララルほか「インドネシア・パダン旧市街地における地震前後の環境移行に関する考察 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その8」日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.5
- ・竹内泰ほか「インドネシア・パダン旧市街地における歴史的町並み復興に関する課題 2009年西スマトラ地震後のパダンにおける歴史的町並み復興 その9」日本建築学会大会学術講演会 東海大学 15.9.5

刊行物

- ・『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』東京文化財研究所 16.3
- ・『「東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望」研究会報告書』東京文化財研究所 16.3
- ・“Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Pdang Lama di Padang, Sumatera Barat” NRICPT, 15.8
- ・“Laporan “Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat”” NRICPT, 16.3

研究組織

○川野邊渉、友田正彦、山下好彦、佐藤桂、山田大樹、増渕麻里耶、北川瑞季、近藤洋 (以上、文化遺産国際協力センター)

『世界遺産用語集』(②セ01の一環として実施)

本書は世界遺産の推薦や保全状況報告の際に重要となる77件の用語について、英語とその和訳、定義をまとめたもの。2012～15年の世界遺産委員会などでの議論や関連事項についての解説も付している。2016年3月刊行、144ページ。



『各国の文化財保護法令シリーズ [20] メキシコ』(②セ01の一環として実施)

本冊子は、メキシコの文化遺産保護に関する法令「考古学・芸術・歴史的記念物及び地区に関する連邦法」を、原文のスペイン語から和訳したものである。巻末には原文も併せて掲載している。日本語・スペイン語、2016年3月刊行、79ページ。



『選定保存技術に関する調査報告書 1 和鋼』(②セ01の一環として実施)

日本の選定保存技術を海外に紹介するために調査を行った、玉鋼製造(たたら吹き)に関する調査報告書。たたら吹きは日本古来の製鉄技術で、日本刀製作に欠かせない不純物の非常に少ない玉鋼が製造される。日本語・英語、2016年3月刊行、160ページ。



カレンダー2016「文化財を守る日本の伝統技術」(壁掛版・卓上版)(②セ01の一環として実施)

日本の文化財に関する技術と材料を海外に紹介するため、12種類の選定保存技術について調査と写真撮影を行い、壁掛版と卓上版のカレンダー2種類を作成した。各技術についての解説を付した。日本語・英語、2015年11月刊行。



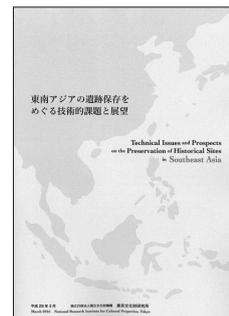
『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』(②セ02の一環として実施)

平成27年度に東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力として、カンボジア及びミャンマーを中心に実施した諸事業の内容と事業成果、関連資料・報告等を収録。日本語、2016年3月刊行、124ページ。



『東南アジアの遺跡保存をめぐる技術的課題と展望』(②セ02の一環として実施)

2015(平成27)年11月13日に東京文化財研究所において開催した同題研究会の内容を収録した報告書。インドネシア、タイ、カンボジア、ベトナム、ミャンマーの5か国より招聘した考古・建築遺跡保存専門家からの書き下ろし論考と、会場からの質疑応答を含む総合討論の内容を採録。日本語・英語、2016年3月刊行、104ページ。



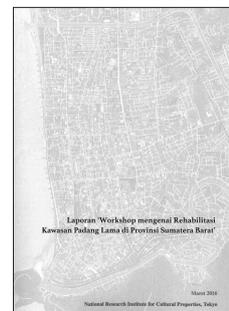
Riset Integrasi Berlandaskan Rekonstruksi Warisan Budaya Kawasan Padang Lama di Padang, Sumatera Barat (②セ02の一環として実施)

2015(平成27)年3月に刊行した『西スマトラ州パダン歴史地区における文化遺産復興に関する総合的研究』(平成24~26年度日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究(B)海外学術調査、研究課題番号:24404022、研究代表者:亀井伸雄 東京文化財研究所所長)のインドネシア語版。データ収録CD付録。インドネシア語、2015年8月刊行、74ページ。



Laporan 'Workshop mengenai Rehabilitasi Kawasan Padang Lama di Provinsi Sumatera Barat' (②セ02の一環として実施)

2015(平成27)年8月26日にインドネシア西スマトラ州パダン市内において開催した「西スマトラ・パダン歴史地区の再生に関するワークショップ」(西スマトラ州観光・創造経済局主催)の内容を収録した報告書。同ワークショップでの発表資料と総合討論の概要に加え、パダン歴史地区の価値評価と復興の方向性等に関する日本人専門家からの諸提言を採録。インドネシア語、2016年3月刊行、150ページ。



Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2013: 11th Mission (②セ03の一環として実施)

本書は2013(平成25)年9月から10月にかけて派遣したバーミヤーン遺跡保存事業第11次ミッションの英文概報である(和文は2015年3月に刊行)。同ミッションで実施した壁画の状態調査、環境計測データの回収、考古遺跡の現状調査等について報告した。また、武庫川女子大学が作成したバーミヤーン新博物館の基本設計案も補遺として収録した。英語、2015年12月刊行、95ページ。

